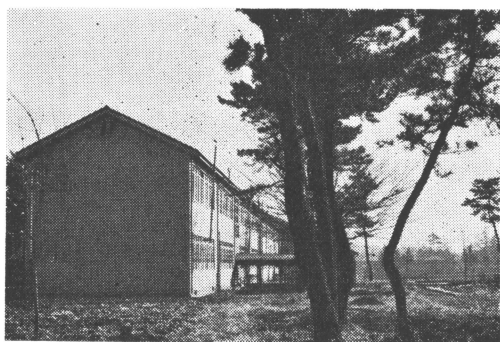
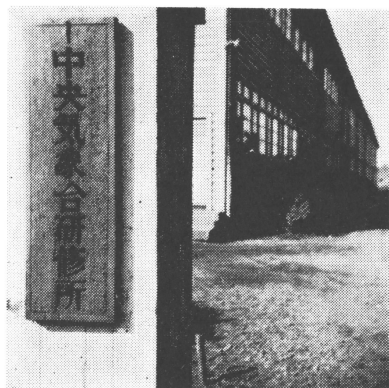


地方だより

気象庁研修所



月並ながら、久しく御無音に打過ぎ申事もありません。急に思い立って近況を御報告したいと存じます。

つい先達っての8月19日、研修所では気象学会の月例会がもたれました。主題は「気象学史と気象教育」、仲々多彩な、ちょっと例のない、面白い研究会でありました。白岡さんが歴史的事実とは何かと論じた辺りはまさに圧巻というべきで、君が居たら、さぞや大議論になったことでしょう。午後には「気象技術官養成所」についてのシンポジウムが行われ、いろいろの階層の方々からそれぞれ特徴ある意見が述べられ、今更ながら考えさせられたことでした。よかれ、あしかれ、岡田・藤原両先生の影響は大したもの！

大正10年頃の気象台は仲々面倒な時機であったようです。寺田寅彦の日記をくってみると、《誰それが来て気象台の人事について話した》という記事が頻りにでています。人事問題をあれほど嫌がった寅彦先生が、これほど、タンネンに書いているのは只事ではありませんまい。それは正に、気象台脱皮の悩みのあらわれでなくてなんであったでしょう。

そして、その、脱皮のエネルギーは、実に、新しい感覚をもった気象技術者の養成にかかっていたのでした。

大正11年9月中央気象台附属測候技術官養成所設置、17年たって昭和14年4月気象技術官養成所と改称、昭和18年現地柏町に新築移転、戦後の昭和26年4月中央気象台研修所と三転、その間わが国気象技術教育の中心として発展して来たことは君も御承知の通りです。

しかし、第二の大正10年が来たと感じるのは私1人ではありますまい。昨年から高等部が新設され、全国から高校新卒の学生は15人が入って来ております。どうか彼等の今後の活躍ぶりを暖かい目で見守ってやって下さい。

ここまできて思い出しましたが、君はまだここをみたことはなかったのですね。是非、一度いらして下さい。上野駅始発の常盤電車に乗って50分で柏駅につきます。西口を下りて西方へ歩いて14分、木々にかこまれた広大な地域にあります。同封の写真にみるような小さな門をくぐると、輝く歴史に色あせた校舎と、そこに未来を背負うて学習にいそむ若い学生の姿をみるでしょう。これが歴史的事実ではないと、白岡さんでも、よもや云いますまい。ただし、こここのところは白岡さんに内緒のこと。

ではまた。

(渡辺次雄)